

講座名（専門科目名）	小児成育外科	教授 氏名	渡邊美穂
学生への指導方針	リサーチマインドを持った小児外科医を育成することを目標として、臨床に根ざした基礎研究、臨床研究を行う。		
学生に対する要望	小児外科医療に対する高い関心とモチベーション		
問合せ先	(Tel) 06-6879-3753 (Email) jimu@pedsurg.med.osaka-u.ac.jp	担当者	講師 野村元成
その他出願にあたっての注意事項等			

(以下教室紹介)

大阪大学小児外科(小児成育外科)の研究理念および歴史について :

当科の歴史は昭和 27 年頃、同大学第一外科においてわが国小児外科のパイオニアである植田隆先生のヒルシュスプリング病の手術に始まります。昭和 35 年には当時最も困難とされていた食道閉鎖症手術において日大若林教授と同時期にわが国最初の成功を収めました。また、昭和 41 年に岡本英三先生(兵庫医科大学名誉教授) が英国小児外科学会で発表されたヒルシュスプリング病における腸管壁内自律神経の発生起源に関する胎生学的研究は、現在も国際的に高く評価されています。そして昭和 57 年には、旧第一外科より診療科としての小児外科が独立し、初代教授に岡田正先生が就任しました。岡田正教授のもとでは、外科栄養を中心とした業績が積み重ねられ、平成元年には正式の講座となり、教授以下スタッフ 8 名と全国でも有数の医局員を擁する教室に発展しました。平成 15 年 6 月には岡田正教授の後任として福澤正洋先生が第 2 代教授に就任し、小児がん、腸管不全、横隔膜ヘルニアといった難治性疾患に対する優れた臨床、基礎研究を行ってきました。そして平成 26 年 7 月には奥山宏臣先生が第 3 代教授に就任し、上記研究を引き継ぎ、更なる発展を目指して教室員一同切磋琢磨しております。

研究について :

当科では、常に患者さんとそのご家族に信頼される質の高い小児外科診療を提供すること、その成果を広く世界に発信すること、そして次世代を担うリサーチマインドを持った小児外科医を育成することを目標として、臨床に基づいた多くの研究テーマを中心とした基礎研究、臨床研究を行っております。また、独自のテーマにとらわれず多施設共同研や、関連病院セミナーなど、様々な研究を活発に行っております。発足当時より継続されている新生児外科、小児固形悪性腫瘍、小児胆道疾患、腸管不全、外科栄養、肝疾患・生体肝移植・小腸移植を重点領域とした臨床研究に加え、現在では、内視鏡外科手術に代表される低侵襲治療、再生医療、胎児治療の研究を積極的に進めています。